

国立国語研究所学術情報リポジトリ

「全国若者語調査」における言語伝播モデル

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002726

「全国若者語調査」における言語伝播モデル*

鎌水 兼貴

(国立国語研究所)

1. はじめに

1. 1 若者語とは

本研究は、2011～2012年に実施した「全国若者語調査」の結果報告を通じて、若者語の全国調査分布と、伝播過程に関して考察をおこなうものである。

いわゆる若者を中心に用いられることばは、一般に「若者ことば(言葉)」と呼ばれることが多いと思われるが、術語は安定していない。「若者ことば(言葉)」以外にも「若者語」「若者用語」など、さまざまである。そのため、本稿においては、これらの用語に関する表記を便宜的に「若者語」に統一する。

その「若者語」の定義だが、決まったものがあるわけではない。若者語研究の第一人者である米川明彦は、若者語を集団語の下位概念と捉え、主に機能面から以下のように定義している(米川1996 p.12)。

若者語とは中学生から30歳前後の男女が、仲間内で、会話促進・娯楽・連帯・イメージ伝達・隠蔽・緩衝・浄化などのために使う、規範からの自由と遊びを特徴に持つ特有の語や言い回しである。個々の語について個人の使用、言語意識にかなり差がある。また時代によっても違う。若者ことばともいう。

一方、言語変化を扱う方言学、社会言語学においても若者語は研究対象となる。「新方言」研究で知られる井上史雄は、若者語を言語変化の縮約した形として、ある時点での若者が将来老いたときに使用するか否か、後の時代の若者が使用するか否か、という観点から、若者語を以下のように4分類している(井上1994 p.4)。ただし若者語の定義は「若者がよく使い、ほかの世代の人があまり使わないことば、あるいは若者に特徴的とされることば」と簡単な記述にとどめている。

一時的流行語	若者が老いて不使用・後の若者も不使用	例:新語・時事用語, はやりことば
コーホート語	若者が老いても使用・後の若者も使用	例:生き残った流行語, 世相語
若者世代語	若者が老いて不使用・後の若者は使用	例:キャンパス用語, 学生用語
言語変化	若者が老いても使用・後の若者は不使用	例:新方言, 確立した新語

* 本稿は、鎌水兼貴(2014 予定)「『全国若者語調査』結果概観」(『専修国文』94号)ならびに、Urban Language Seminar 11(広島市文化交流会館)ポスター発表(2013年8月)「若者語の地理的分布」を元に加筆・修正を行ったものである。

「若者」という語自体は特定の世代を指す語だが、若者語の内容には使用者の属性や使用意識、使用場面なども含まれている。関連する術語としては「集団語」「流行語」「新方言」「俗語」などがあげられ、どれも若者語と大きく重なる部分があり、これらの術語もまた定義が難しいものばかりである。

以上から、本研究における若者語の定義は、厳密にはおこなわず、外形から判断しやすい「若年層を中心に使用されていると思われる非標準的な新しい語・表現」といった程度にとどめることにする。上述の関連術語との関係なども含め、定義に関しては今後の課題としたい。

1. 2 若者語の地理的研究の意義

定義段階から問題になる原因として、若者語に関する研究があまり進展していないことが考えられる。若者語に相当する現象についての個別の報告や研究は数多く存在する。しかし若者語全体をとらえる研究は少ないと思われる。そのためには、大規模の実態把握調査が必要である。本研究では、全国規模の調査を実施し、若者語の実態の解明を目指す。

現代社会は、インターネットなどのメディアの技術発展により、遠方であってもコミュニケーションを高速におこなうことが可能である。しかし実際の日常におけるコミュニケーションは、生活範囲で直接会うことができる相手とおこなわれることが圧倒的に多い。そのため、若者語の使用においても使用者の生育地という地理的制約が強く働くと思われる。

このことは、若者語にも地理的差異があることを示している。ところが一定以上普及してしまうと、テレビやインターネットなど、メディア経由で急速に広範囲に拡散し、地域差が失われる可能性がある。そのため若者語の普及初期に地域差が表れやすいと思われる。

若者語の地理的差異については、永瀬治郎による先駆的な調査研究がある。永瀬(2006)では、若者語の言語地図を作成し、全国的分布の例を示している。また、属性(性別、世代)と地理的分布の関係についても示唆している。このため、若者語研究においても言語地理学的手法が適用できると考え、本研究では詳細な言語地図を作成し、分析を試みることにした。

地理的伝播に関して、若者語は、人々が集住し、コミュニケーションの密度の高い大都市の中心部から広がることが予想される。そのため、都市における言語の中央と周辺関係を明らかにする上でも、若者語研究は重要である。また、若者語の中でも普及速度や普及経路には違いがあると思われる。そうした語による違いは、前述の関連用語の整理にも貢献するであろう。

このように若者語の実態の解明は、都市の言語、ひいては全国共通語、現代日本語の形成過程の解明にもつながるものと思われる。そのため本研究では、全国の大学生を対象に実施した「全国若者語調査」の調査結果から、若者語の使用実態について考察する。

2. 全国若者語調査

2. 1 調査準備

「全国若者語調査」は、専修大学文学部日本語学科ゼミナールⅡ・Ⅲの演習において、授業の一環として計画、実施したものである。調査票の作成においては以下のような点を重視した。

- ① 現在使用されている代表的な若者語について、主にその普及状況について考察する。
(一部、かつての若者語についても調べ、衰退状況についても考察する)
- ② 若者語の使われ方について、意味や、接触頻度などとの関係で分析する。
- ③ 東京語化・関西弁化などと呼ばれる大都市圏の言語の全国への影響について、若者語の視点から分析する。
- ④ 携帯電話・インターネットで使用される語の、話しことばや、書きことばへの影響を分析する。

調査項目は、ゼミナール所属の学生が収集した若者語を元に、授業中および夏季休暇中に検討を重ね、2011年10月に仮調査票が完成した。

2. 2 調査の実施

2. 2. 1 調査期間

調査対象は調査依頼のしやすさを考慮して、大学生とした。調査概要は以下のとおりである。

調査期間：2011年10月～2012年6月

試行調査：2011年10月

本調査：2011年11月～2012年2月

追加調査：2012年5月～6月

調査対象：35大学 2762人

2011年10月に、完成した仮調査票による試行調査を2大学で実施した。そして問題点を修正したのち、全国の大学の協力者に調査依頼をした。

本調査は、2011年11月から翌年2月にかけて実施したが、年度末に近かったこともあり、調査票の回収中に専修大学での授業が終了してしまった。そのため国立国語研究所の共同研究プロジェクトで調査研究を継続することとなった。2012年3月には、共同研究プロジェクトの研究発表会にて調査の中間報告をおこない、さらに協力者を得て、2012年度も調査を継続することとなった。最後の調査(2012年6月)は、試行調査から8か月が経過しており、流行語的性格の強い語に関しては、注意して分析する必要がある。

2. 2. 2 調査項目

調査項目は、以下の9問から構成される。調査票は本文末の資料を参照してほしい。

- 問1 有名な若者語（使用度・使用意識）
- 問2 度をあらわす語・携帯電話用語（語形選択）
- 問3 方言項目（語形選択）
- 問4 度を表す語の強さ（順位づけ）
- 問5 意味が逆になる語の用法（使用度・規範意識）
- 問6 店舗名の省略と動詞化（語形選択）
- 問7 インターネット用語（使用場面選択）
- 問8 言語生活・言語意識項目
- 問9 フェイスシート

本研究では、分析に地理的観点を重視したため、詳細な言語地図を作成することができるように、問9のフェイスシートの生育地の質問において、詳細な地域までたずねた。この点については後述する。

2. 2. 3 生育地

言語地図を作成するにあたり、地図上の記号の位置となる生育地の精度は、もっとも重要な部分である。本研究においては、言語形成期にあたる5歳から15歳までに、最も長く住んでいた場所を生育地とみなした。

生育地の住所については、個人情報にあたることやアンケート調査であることを考慮すれば、市区町村単位までが妥当と思われるが、あえて大字単位（丁目や番地などの数字の前の部分）までとした。

実際、生育地の回答に抵抗を感じる人は多く、全回答者2762人中、大字単位までの回答は1273人（46%）にとどまった。ただし全国規模の地図においては、市区町村単位でも問題ないと考えられるため、市区町村単位まで回答した646人（23%）も採用とした。そのため1919人（69%）が採用となった。本研究では都道府県名しか書いていない回答は不採用としたが、都道府県別の集計をする場合には採用可能である。

地図を作成するためには、生育地の住所データを、緯度・経度データに変換しなければならない。そのため、大西ほか(2011)や鎌水(2011)などで使用されている、東京大学空間情報科学研究センターによる「CSIS シンプルジオコーディング実験」のサービスを利用した。住所の文字列を入力すると、緯度・経度の数値が出力される。

今回の調査では、市区町村単位までの回答が多くあったが、この場合、市区町村の役所（役場）の緯度・経度が出力される¹。広域の市区町村の場合は、回答者の本来の生育地から大きく離れることがあるため、地図を詳細に見る場合は注意しなければならない。

¹ 同一市町村内に、このような回答者が複数いる場合でも、記号はすべて役所（役場）の1点に重なってプロットされてしまう。逆にそのために、分析において都市中心部に分布が集中している、といったような誤解は起きにくい。

2. 3 言語地図の作成

2. 3. 1 作図方法

本研究は、地理的観点からの分析をおこなうため、結果は言語地図によって出力した。地図は自作プログラムによって出力した。地図データには、岡本義雄氏（大阪教育大学）作成の「日本列島海岸線データ&県境データ」を加工して利用した。地図の図法には、もっとも単純な、緯度・経度をそのまま座標に置き換えた正距円筒図法を採用した。

紙面の都合で、北海道と島嶼部は大きく移動しているが、小笠原諸島ほか、今回の調査で生育地としての回答者がいなかった一部の島嶼部については、地図から省略した。

2. 3. 2 地図の特徴

地図は全国地図のほかに詳細図を作成した。詳細図は、回答者が多く記号が密集して判別困難になる首都圏と中京・関西圏（以下「関西圏」とする）の2地域で作成したが、他にも全国地図では地点が密集している地域がある。

また、属性別集計で性差がみられる項目が多かったため、男女別の地図も作成した。採用回答中の性別の内訳は、男性 689 人、女性 1190 人と、女性の割合が高い。地図を性別で比較する場合は、男女の地点密度が異なる点に注意して見る必要である。

質問項目には、自由記述はほとんどなく、大半が提示語形に関して使用・不使用の選択でたずねているため、記号化は単純である。地図の記号は、基本的に、使用回答には「■」を、不使用回答（未選択回答も含む）には「\」と割り当てている。

2. 3. 3 地図の注意点

本研究における地図は、一般の言語地図と比較して、いくつかの点で注意が必要である。地図記号が表示されている地点は、その地点で生育した人の回答である。これは伝統的言語地図における「はえぬき」とは異なり、転居歴がある人も多く含んでいる。5歳から15歳としたのは、言語が固定化される「言語形成期」という考えにもとづいているが、16歳以後に転居した人や、遠くの大学に進学した人の場合、その後の言語習得により、回答が生育地にいた頃とは異なる可能性もある。

また、地点は回答者の生育地によるため、全国均一にはならない。地域により地点の密度が大きく異なっており、特に大都市は回答者の生育地が多く、地点密度が高い。そのため、たとえ使用率が低くても使用者数は多くなり、分析時に惑わされる可能性がある。分布の読み取り時には、特に注意しなければならない。

地図については、全ての項目ではないが鐘水(2013)として刊行した²。

² 鐘水(2013)は、インターネット上でも PDF ファイルとしてダウンロード可能である。
<http://www.ninjal.ac.jp/shutoken/5-1.html>（最終閲覧日：2013年12月10日）

3. 分析

3. 1 全国規模の地域差

3. 1. 1 関西圏中心の分布

永瀬(2006)の若者語の全国地図でも明らかなように、若者語にも地理的差異が存在する。ここでは全国地図でも分布領域が明確な、使用地域の限定された語について述べる。

図1は「マクド」(マクドナルド)、図2は「セブイレ」(セブンイレブン)の地図である。どちらも店舗名の略称だが、使用回答は関西地方に集中している。他の地域ではほとんど使用者がいないため、現代の関西方言になっているといえるだろう。「マクド」は関東でも有名な関西方言で、わずかに使用者がいるが、普及しているとはいえない。

「セブイレ」も関西地方中心だが、「マクド」と比較して四国地方に広がっておらず、分布領域が狭い。しかし、これは調査時点ではセブンイレブンが四国地方に出店していなかったことと関係していると思われる。四国地方では全国的に使用されている「セブン」が回答されている。セブンイレブンの店舗はないため、使用機会が少なく、メディア等から東京で使用される略称が広まっているものと思われる。

しかし2013年3月より香川県・徳島県にセブンイレブンの出店が始まった。実際の店舗の利用が始まり、店舗名の使用機会が増加することで、関西地方に近い両県では、関西式の「セブイレ」の影響を受けやすくなると思われる。「セブイレ」が四国地方に普及することで、「マクド」の分布領域と同じようになる可能性があるだろう。

3. 1. 2 首都圏中心の分布

図3は、「おこ」(怒った状態)の地図である。全国的に使用者が非常に少なく、関東南部にわずかに分布しているだけである。現時点(2013年)では、テレビでも紹介されて有名になった語だが、2011年当時は、授業における学生のコメントでも「妹が使用する」「中高生で聞く」といったように、大学生には広がっていなかったと思われる。また、「おこ」は、Twitterなどインターネット上での使用が多いとされるが、調査票での選択肢は口頭表現としての使用をたずねているため、使用回答が少なくなった可能性もある。

若者語は、中心都市での普及が進むと、メディアなどを經由して急速に拡散する傾向がある。そのため、使用率が非常に低い状態の地理的分布をとらえられたことは貴重である。さらに、東京から発信される語において、普及初期段階において、東京都区部とその周辺のみという狭い分布が存在することを確認できたのは、語の普及過程の研究においても意義があると思われる。

今回の調査では、「おこ」のほかにも使用回答が首都圏を中心に分布する項目が多く確認できた。東京は日本の情報発信の中心地であり、若者語が首都圏中心の分布となることは予想できる。しかし、今回の調査項目は、神奈川県川崎市に立地する大学に通学する学生が収集した語で構成されており、調査結果に強く影響していると思われる。今後は、他地域、特に関西で使用される語についての全国規模の調査が必要だと思われる。

■: 使う
◇: 未選択

17% (322/1919)

(A) 全国地図

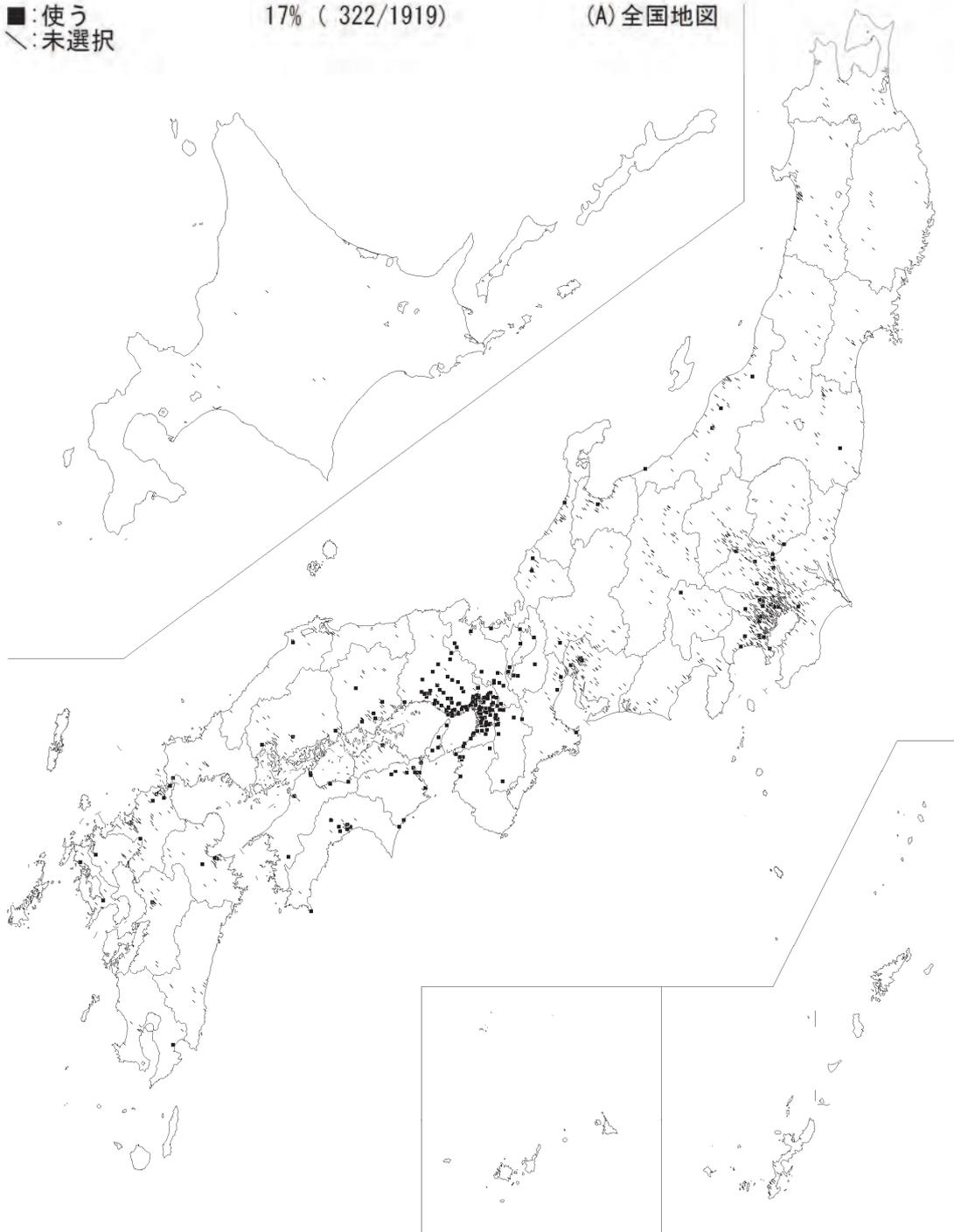


図1 「マクド」(マクドナルド)の全国地図

■: 回答あり
/ : 回答なし

10% (188/1919)



図2 「セビレ」(セブンイレブン)の全国地図



図3 「おこ」(怒った状態)の全国地図

3. 2 中心部から周辺部への伝播

3. 2. 1 各地方の中心部への普及

若者語のように普及速度の速い語は、変化の状態をとらえることが難しい。一定の分布領域を持っていた状態から、広域に普及して分布領域が失われていく過程について把握する必要がある。そのため、普及の段階と地理的分布の関係について、さらに事例を分析する。

図4は「あげぽよ」（気分が高揚した状態）の全国地図である。流行語項目は選択肢が他の項目より細かく、現在の使用と過去の使用とを分けている。しかし、地図では二つの選択肢を合わせて表示している。

「あげぽよ」は、2010年頃に全国的に有名になった若者語であり、調査票作成時（2011年春）に、もっとも多く多くの学生が調査項目の候補にあげた語である。そのためすでに全国に普及しており、どの地域で使われ始めたかについては、一見するとわからない。

しかし図をよくみると、全国に広がったとはいえ、多くの地域で都市の中心部に使用者が集中しており、周辺部では使用が少ないようにみえる。そのため詳細図をみることにする。図5は首都圏、図6は関西圏（中京圏も表示されている）の詳細図である。

厳密ではないが、首都圏には東京特別区を中心とした地域を、関西圏には大阪市を中心とした地域をそれぞれ線で囲んだ（図6では名古屋市周辺についても囲んだが、大阪市周辺よりも回答者数が少ないため、他の関西圏の詳細図では囲んでいない）。

図5をみると、首都圏では使用者が広く分布しているが、広域にみると首都圏周辺部の山梨県、長野県、栃木県、茨城県などで使用者が少ないことがわかる。また図6でも、大阪市や神戸市といった大阪湾に近い都市では使用者が多く、海岸から離れた内陸部、山陰地方では使用者が少ない。同様に、名古屋市でも中心部は使用者が多いが、周辺地域では少ない。さらに図4の全国地図にもどって九州地方をみると、福岡市や北九州市では使用者が多いが、福岡県南部や大分県、熊本県では少ない。このほか、富山県や高知県など回答者の多い地域をみても、使用者が中心部（県庁所在地）に多く、周辺部に少ないようにみえる。

以上から、「あげぽよ」の使用者の地理的分布は、都市の中心部において早く普及し、周辺部には遅く普及するという、周圈的な分布といえるだろう。各地域で中心部と周辺部に差があるような分布を地理的分布をとらえるかは議論があると思われるが、まとまった分布領域が存在するという点で地理的分布とみなすことにする³。

また、都市中心部に使用者が多いということは、単に人口の多い中心部に回答者数が多いだけで、周辺部では回答者一人が占める割合が大きいため、統計的検定では誤差の範囲内に入ってしまいう可能性もある。一方で、人口密度が高い地域は、人々の接触も多い地域であり、伝播が進みやすい条件がある。そのため、使用率が低くても使用者の絶対数が多いため、接触確率が高くなる。数量的分析を行う際には、回答地点の人口密度など、人々の接触を考慮した分析が必要であろう。

³ 生育地の都市規模による差と考えれば社会的属性による差とみなすこともできる。しかし地伝いによる伝播の側面もあるため、言語地理学における方言圏論とあわせて検討する必要があるだろう。

■: 使う・使った
\\: 聞く・聞いた
・: 知らない

21% (403/1919)



図4 「あげぼよ」(気分が高揚した状態)の全国地図

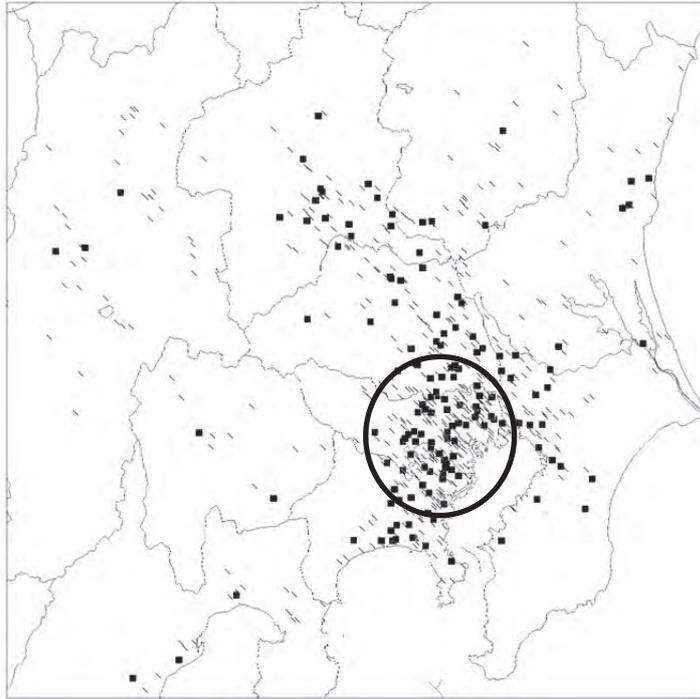


図5 「あげぽよ」(気分が高揚した状態)の地図(首都圏)

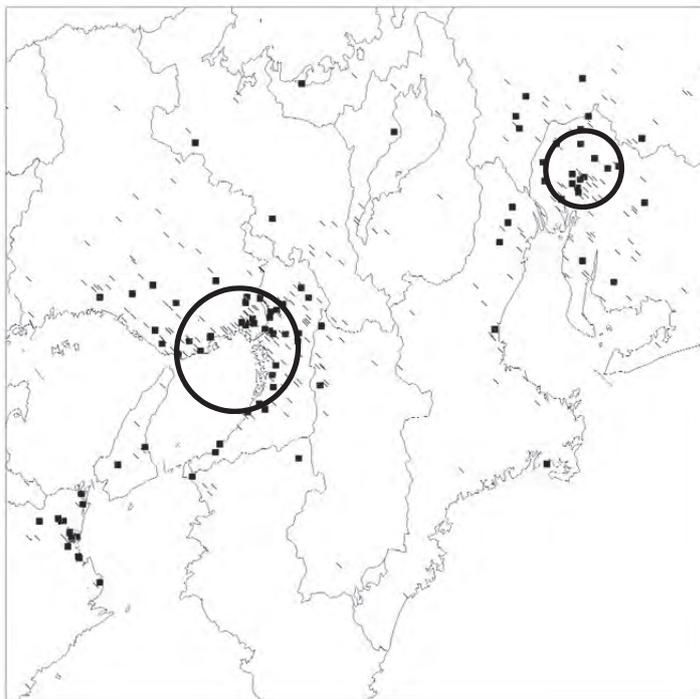


図6 「あげぽよ」(気分が高揚した状態)の地図(関西圏)

3. 2. 2 大都市間の相互伝播

若者語には、各地域の大都市の中心部で早く普及し、周辺部には遅く伝わるパターンがあることがわかった。このことは、全国各地に中心部から各種メディアを経由して直接伝播するのではなく、いったん近隣の中核都市に伝播してから、その周辺部に広がるという階層的な伝播になっていることを表わしている。

中心部となる都市の規模が大きい場合には、相互に影響を与え合う可能性もある。ここでは、日本の二大都市圏である首都圏と関西圏の相互影響についてみる。図7は、関西方言である「オモンナイ」（面白くない）の首都圏での使用を、図8は、関東方言である「イーンジャネ？」（いいんじゃない？）の関西圏での使用を示した地図である。

どちらも若年層で多く使用される語とはいえ、他地域の方言であることもあり、あまり多く使用されていない。しかし、どちらも地域の中心部にも、一定数の使用者がいることがわかる⁴。大都市間において、それぞれの都市の中心部同士で、互いに影響を与え合っている、ということが観察できる。

大都市の中心部は、単に人口密度が高だけでなく、他地域からの滞在者や移住者が多い。そうした他地域の人々との交流によって、自然と他地域の言語的影響を受けていると思われる。これは、都市の言語が複雑化する要因の一つといえるだろう。

3. 3 属性差に含まれる地域差

3. 3. 1 男性のみに現れる地域差

本研究では地理的分布を重視しているが、若者語の普及は地理的要因ばかりではない。属性差や個人差が主要因であることも多いと思われる。

表1は、携帯電話用語の項目に関する男女差である。ほとんどの語で男性より女性の使用率が高いことがわかる。地理的分布をみると、携帯電話項目は、地域差が明確ではない。これは地域差よりも性差の要因が大きいことが原因であると思われる。

ここでは関西圏における「着拒」（着信拒否）の地図をとりあげる。図9は、関西圏における「着拒」の地図である。やや中心部に使用者が多いように思えるが、地点密度の関係もあるため、この図では地域差はわかりにくい。つづいて男女別にした地図を図10・図11に示す。使用が進んでいる女性（図10）の地域差は、図8よりも分布が明確でなくなったが、使用が遅れている男性（図11）は、大阪市ほか沿岸部の大都市に集中して分布していることがわかる。

伝播の方向が中心部から周辺部に進むとすれば、「着拒」の男性の分布は、今後女性の分布のように移行することが予想される。すでに首都圏では男女とも中心部・周辺部の差がなく、これら共時的な言語地図の中の各状態は、言語変化の各段階として読み取ることができる。

⁴ 関西で生育したが関東の大学に入学している、というような生育地と現住地が異なる移住者の影響が出ている可能性がある。たしかに、移住者を含んでいる言語地図では明確な分布になりづらいともいえる。この点については別稿にて論じる予定である。

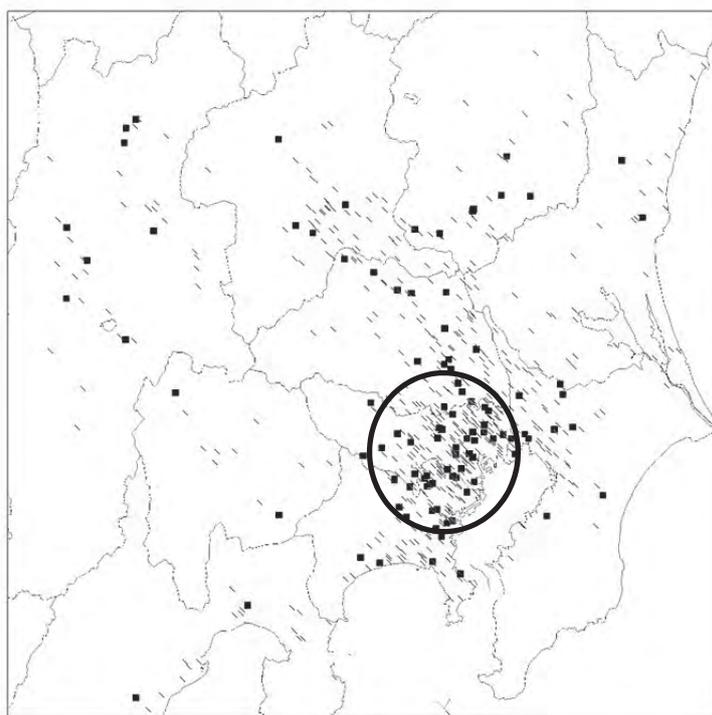


図7 「オモンナイ」(面白くない)の地図(首都圏)

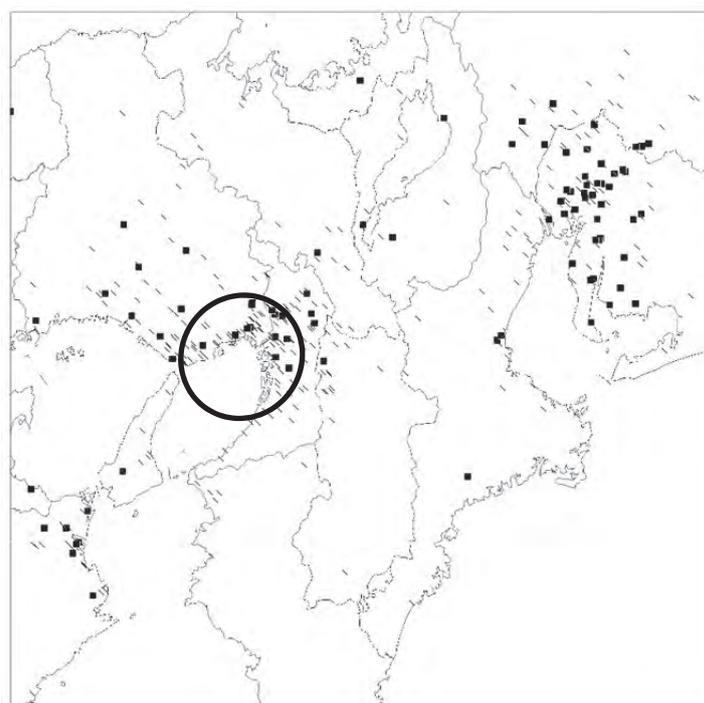


図8 「イーンジャネ」(いいんじゃない?)の地図(関西圏)

表1 携帯電話用語の使用率

語	意味	男(%)	女(%)
携番	携帯電話番号	42	55
知ら番	知らない電話番号	2	2
家(イエ)電	固定電話	61	77
鬼電	頻繁に電話をすること	20	24
アド変	携帯メールアドレス変更	83	91
着拒	着信拒否	43	54

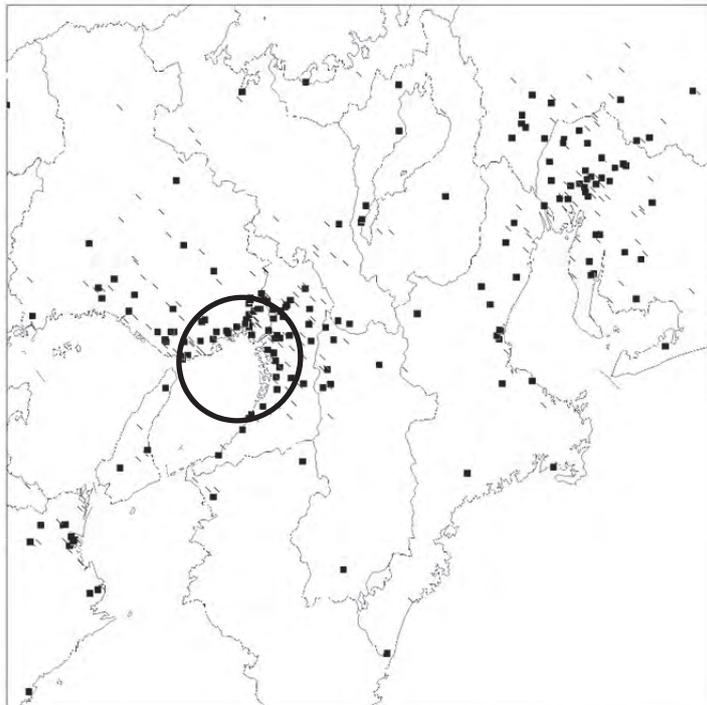


図9 「着拒」(着信拒否)の地図(関西圏)

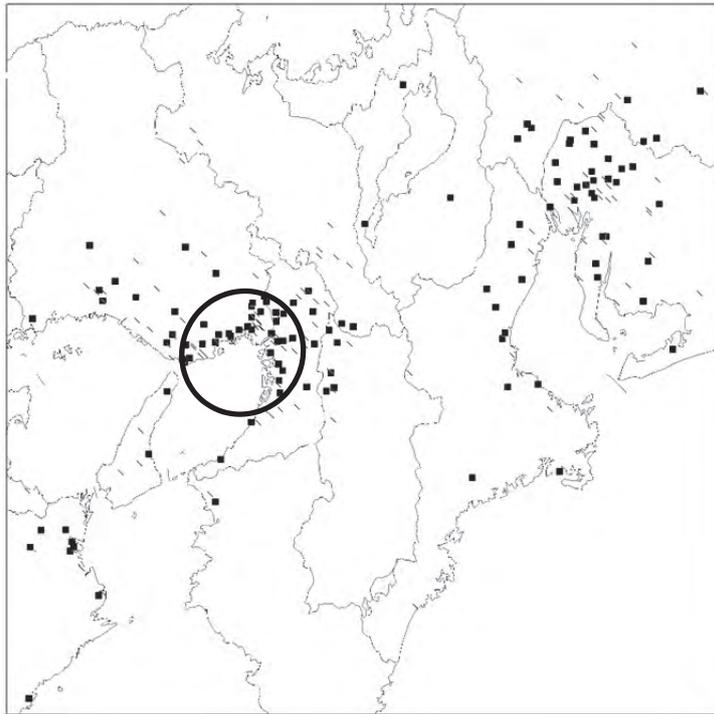


図 10 「着拒」(着信拒否)の地図(関西圏・女性)

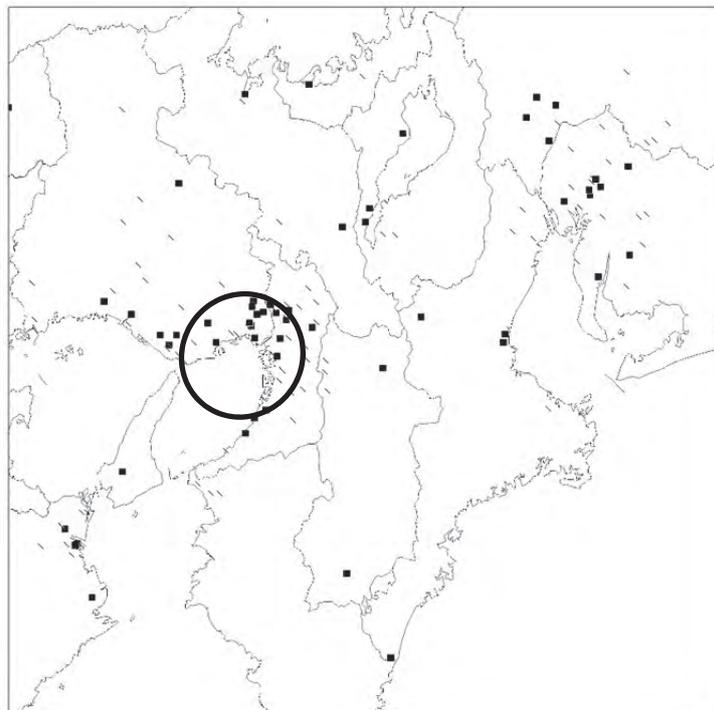


図 11 「着拒」(着信拒否)の地図(関西圏・男性)

3. 3. 2 女性にあらわれる地域差

つづいて、インターネットから一般に広がっている「ワンチャン」(もしかしたら～かもしれない)の分布をみる。「ワンチャン」は、元は麻雀用語ともゲーム(格闘ゲーム)用語ともいわれ、主にインターネットで発展した語である。達成する期待を含んだ可能性についての表現であるが、インターネットから、大学のサークルなどに広がった結果、用法が多岐に変化した⁵、いわば若者語らしい語である。

全国使用率は15%とあまり高くはないが、全国的に広がっており地域差がわかりにくい。しかし首都圏の詳細図(図12)と関西圏の詳細図(図13)を比較すると、首都圏のほうが使用者が多いことがわかる。首都圏全体でみると、東京都を中心とした分布になっていることがわかる。

しかし性別の使用率では、男性が27%、女性が8%と3倍以上の開きがあり、性差の大きい語であることがわかる。特に女性の使用率が低いことから、普及初期段階ではないかと予想し、首都圏の詳細図を、男性(図14)と女性(図15)とに分けて作成した。

男女の地図を比較すると、男性では地域差が失われている一方で、女性においては首都圏中心部、とくに東京都中心の分布になっている。男女の区別がない図12の首都圏の地図においても、地域差があるようにみえるが、図15のように女性だけに限定すれば、より明確になる。調査時点で男性の使用者がすでに広域に分布していたためだということがわかる。

「ワンチャン」の地理的分布のように、一見地域差が明確でないような場合でも、属性別の地図を作成すると地域差があらわれることがある。本研究では地理的差異を中心に分析しているが、若者語には流行語や集団語的性格があり、属性からの分析は不可欠である。

地理的な分析するためには、どうしても地図作成という、他の集計とは別の作業が必要となる。しかし、たとえ属性差が主要因であったとしても、2番目以降の要因として地域差が関係する可能性もある。若者語の複雑な動態をとらえる上で、地域差からの分析は不可欠であると思われる。

⁵ 「ワンチャンス」が語源であり、もとは実現可能性が低い事象に対して望みをつなぐような意味であったと思われる。しかし普及するにつれて、実現可能性の上昇(推量に近い)や、意味の限定(男女関係のみ)、統語的位置の移動(ワンチャン〇〇 → 〇〇ワンチャン)など、さまざまな方向への変化が報告されている。

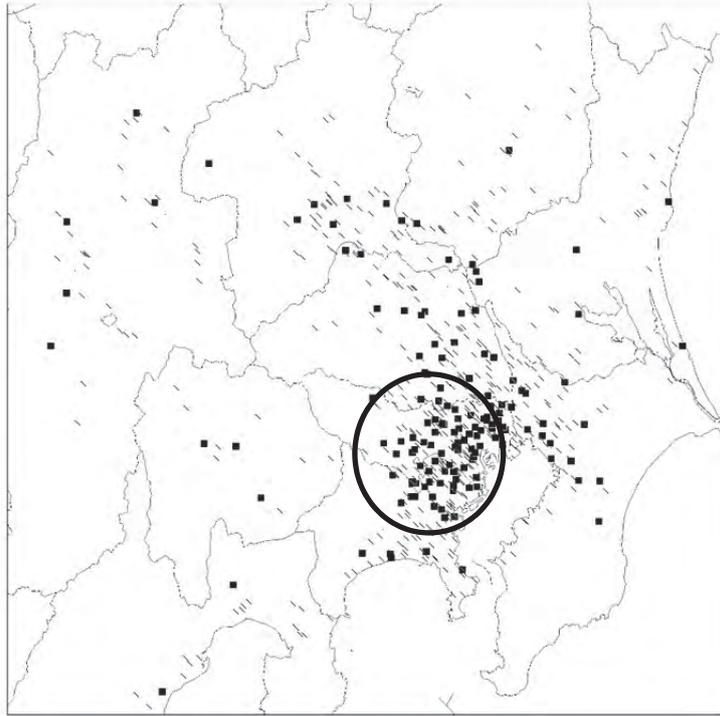


図12 「ワンチャン」(もしかしたら~かもしれない)の地図(首都圏)

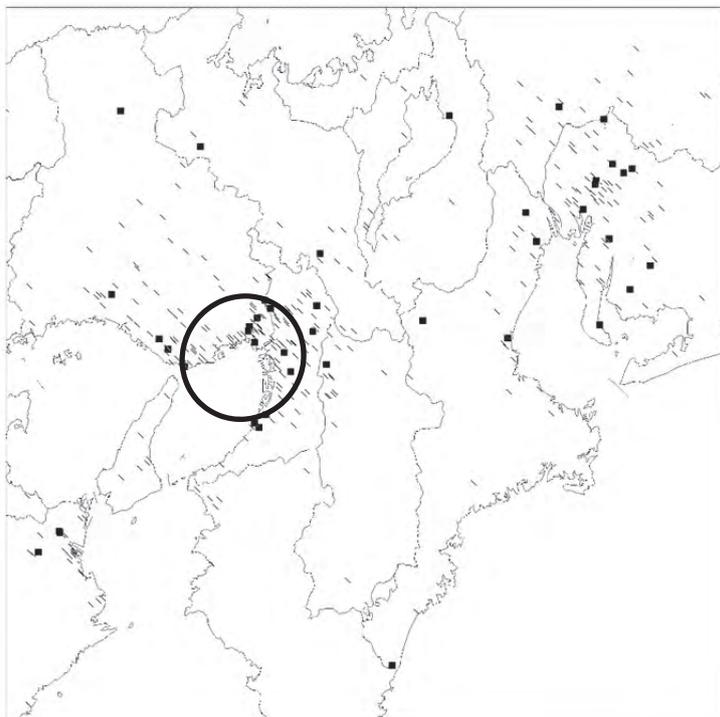


図13 「ワンチャン」(もしかしたら~かもしれない)の地図(関西圏)

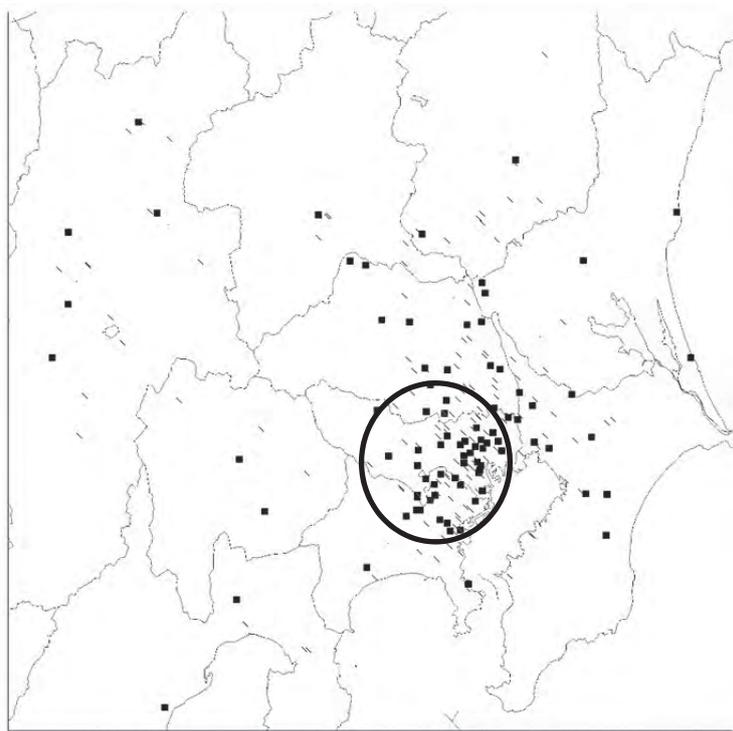


図14 「ワンチャン」(もしかしたら~かもしれない)の地図(首都圏・男性)

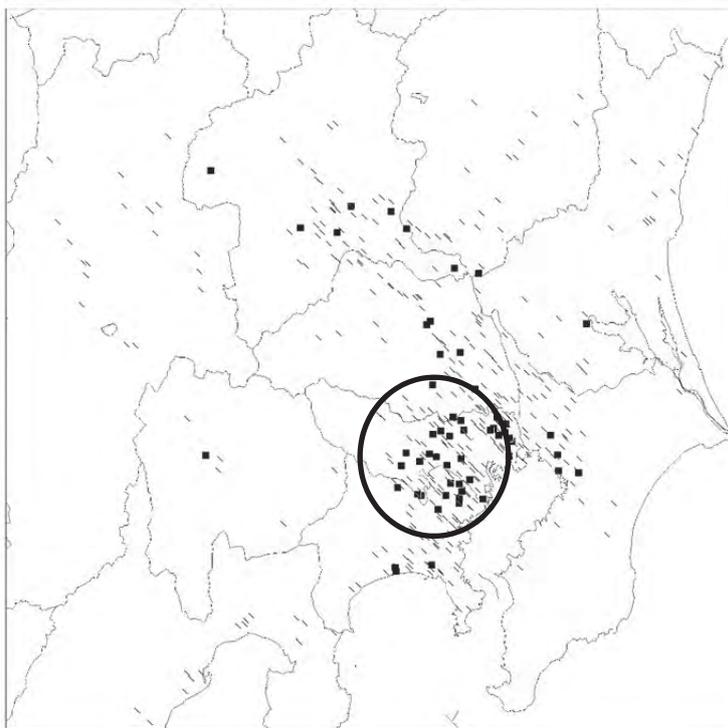


図15 「ワンチャン」(もしかしたら~かもしれない)の地図(首都圏・女性)

4. まとめ

4. 1 若者語の普及モデル

本研究では、2011～2012年に実施した「全国若者語調査」の結果の一部から、若者語の普及過程について、簡単な考察をおこなった。その結果、若者語の地域差と普及過程の関係について、以下の3点がわかった。

- ① 全国規模の地域差の存在
- ② 都市の中心部から周辺部への伝播
- ③ 属性差の中に隠れた地域差の存在

地域に個別に分布するような①の若者語については、②の初期段階とみなすこともできる。また、②において、中心から各地域の大都市に伝播する場合、各地域における使用者の分布は、普及の段階をあらわすことになる。このとき、③のように属性差で説明されるような場合でも、属性ごとに分類して地理的分布をみると地域差があらわれ、②と同様の普及過程の段階を観察することができる可能性がある。

②の中心部から周辺部への伝播について、モデル図にしたものが図16である。階層的に伝播する構造をあらわしている。本研究においては、もっとも大きい中心部を東京とする。まず東京（中心部）から地方の大都市（周辺部）へと伝播し(A)、さらにその大都市（中心部）から周辺の小都市（周辺部）へと伝播する(B)という構造になっている。ただし中心地の規模が大きい場合、メディア等により、小都市に直接影響を与える(C)こともありうるほか、大都市同士（東京もふくむ）が影響を与え合うこともある(D)。

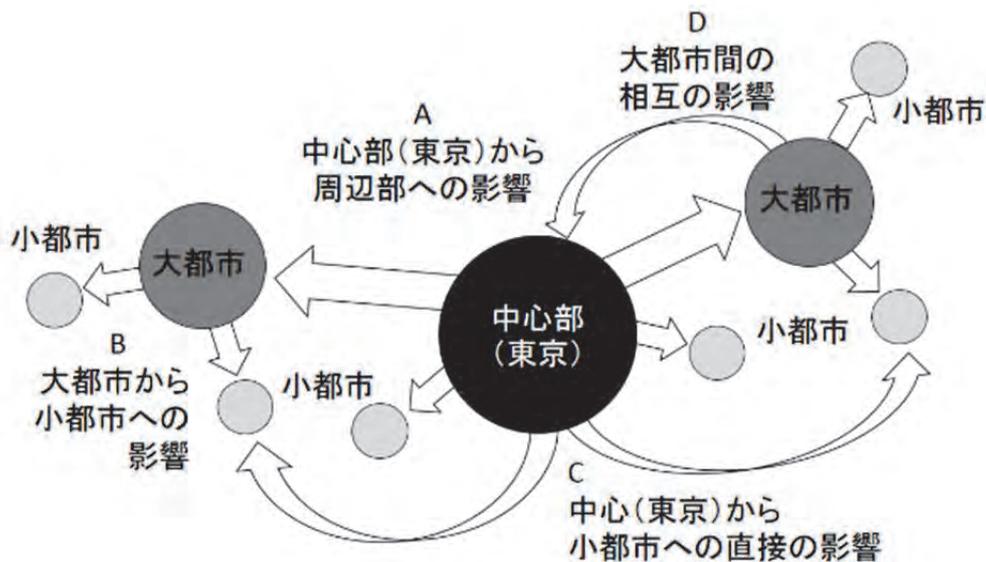


図16 若者語の普及モデル

4. 2 今後の課題

今後の課題として、いくつかの点をあげる。一つめは、言語の分析である以上、語の性質に関する分類をおこなう必要がある。本研究は、言語地図を概観して目立った地域差のある語の分布に関する論考にとどまっている。若者語の伝播過程を考える上では、個々の若者語の性質について検討しなければならない。そのためには、語の用法の記述や、成立過程の調査など、より精密な分析をする必要があるだろう。

二つめは、地理的分布のパターン分類の必要性である。本研究において分布の有無を論じた部分については、数量的分析からの検証が求められるだろう。特に中心部、周辺部といった、領域が漠然としているものについては、客観的基準をもうけた集計作業が必要だと思われる。また語の分類についても数量的側面からの分類ができるため、一つめとも関係する。

三つめは、地理的分布の動態をとらえる必要性である。共時的な調査結果からでも断片的に言語変化の各段階が観察可能である。しかし同一の語の普及過程を地理的に観察するためには、今回の調査を継続する必要がある。全国規模の継続調査を実施するには多大なコストがかかるため、鎌水(2011)による携帯メールを利用した調査のような、低コストの調査方法を検討する必要があるだろう。

このほか本研究で採用した調査の方法や、調査した若者語の項目についても、今後の調査のために検証する必要があるだろう。

5. おわりに

「全国若者語調査」によって、若者語の普及過程を、地理的分布という面から研究する重要性について示すことができたと思われる。地理的分布に関しては、大字単位という細かい生育地をたずねたことで、地点密度が高くなっても、地点が重なることが少なくなり、都道府県単位での集計では見えなかった、都市における分布の広がりを観察することができた。その一方で、男女差だけではあるが、属性差の重要性も再認識できた。

本研究で使用した「全国若者語調査」のデータは、まだ一部分にすぎない。今後、残りの部分についても分析をおこなうほか、本研究における分析についても、他のさまざまな観点から分析を進め、報告していきたい。

文献

井上史雄(1994)『方言学の新地平』明治書院

大西拓一郎・鎌水兼貴・三井はるみ・吉田雅子(2011)『方言の形成過程解明のための全国方言調査：方言メール調査報告書』国立国語研究所共同研究報告 10-2

岡本義雄「日本列島海岸線データ&県境データ」

http://www.cc.osaka-kyoiku.ac.jp/~yossi/programs_trash.html (最終閲覧日：2013年12月10日)

東京大学空間情報科学研究センター「CSIS シンプルジオコーディング実験」

<http://newspat.csis.u-tokyo.ac.jp/geocode/modules/geocode/> (最終閲覧日：2013年12月10日)

永瀬治郎(2006)「若者ことば全国分布図—2005年調査の意味するところ」月刊言語 35-3

鎌水兼貴(2011)「携帯電話を利用した首都圏若年層の言語調査」人文科学とコンピュータ研究会
研究報告 2011-CH-92-1

鎌水兼貴(2013)『首都圏の言語の実態と動向に関する研究 全国若者語調査地区集』国立国語研
究所共同研究報告 12-04

米川明彦(1996)『現代若者ことば考』丸善ライブラリー

謝辞

本研究は、2012年度専修大学文学部日本語学科ゼミナールⅡ・Ⅲ(担当:鎌水兼貴)ならびに、国立国語研究所萌芽・発掘型共同研究プロジェクト「首都圏の言語の実態と動向に関する研究」(プロジェクトリーダー:三井はるみ)による研究成果の一部である。

本調査の準備に努力してくれた当時のゼミの学生諸君と、貴重な授業時間を割いてご協力いただいた各大学の先生方、アンケートに回答していただいた学生の皆様、そして研究においてご指導、ご助言をいただいた国立国語研究所共同研究プロジェクトの皆様に、厚く御礼申し上げます。

参考資料 調査票 (第1調査票)

ことばに関するアンケート

2011年12月
専修大学 鍵水ゼミナール

このアンケートは、専修大学文学部日本語学科・鍵水ゼミナールⅡ・Ⅲの研究として、みなさまの普段のことばの使用についておたずねするものです。回答はすべて機械的に処理されるため、**個人が特定されることは決してありません**。また、集計の結果は、今年度中に公開する予定です。ご協力をお願いいたします。

1. 以下のことばについて、**使う(使った)**かどうか、該当する番号に○をしてください。
(「知らない」以外の人は) また、**面識のない同世代の人に対して使える(使えた)**かどうか (1~5の5段階評価) を教えてください。

例) オッハー	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える← (使えた)	1	2	3	4	5	→使えない (使えなかった)
	(今使っている)	(今使わなかった)	(今聞いている)	(今聞いたことがある)	(見たことも聞いたこともない)					4		
							面識のない同世代の人に対して					
①あげぼよ	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
②さげぼよ	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
③テンションあげ	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
④イケてる	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
⑤オケる (カラオケする)	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
⑥コピる (コピーする)	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
⑦ハブる (仲間外れにする)	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
⑧ググる (Google 検索する)	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
⑨disる (軽蔑する)	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
⑩ツボる (ツボにはまる)	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
⑪キョドる (挙動不審になる)	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
⑫チャライ (チャラチャラしている)	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
⑬オシャンティ (おしゃれ)	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
⑭ジモティ (地元の人)	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
⑮タリい (面倒だ)	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない
⑯チョベリバ (super very bad)	1. 使う	2. 使った	3. 聞く	4. 聞いた	5. 知らない	使える←	1	2	3	4	5	→使えない

2. 以下のことばについて、**使うものすべて**に○をしてください。

(「とても」の意味)

1. 鬼 2. ガチ 3. マジ 4. 超 (チョー) 5. めっちゃ 6. むっちゃ
7. すごい 8. 熱い 9. ヤバイ

(程度をあらわすもの)

10. 普通に 11. 地味に 12. 余裕で 13. なにげに 14. さりげに 15. 微妙に

(ケータイ関係)

16. 携番 17. 知ら番 18. 家電 (イエデン) 19. 鬼電 20. アド変 21. 着拒 (チャックヨ)

3. 下線部分について、**使うものすべて**に○をしてください。別の言い方があれば () 内にお書きください。

- ①「今度の新曲、いいんじゃない?」 1.ヨクナイ? 2.ヨクネ? 3.イーンジャネ? 4.エーンチャウ? 5.その他 ()
②「わー、うざい!」 1.ウザイ 2.ウザツ 3.ウゼー 4.ウザー 5.ウザカ 6.その他 ()
③「意味わからない!」 1.ワカラナイ 2.ワカンナイ 3.ワカンネー 4.ワカラヘン 5.ワカラン 6.その他 ()
④「面白くないやつ!」 1.オモシロクナイ 2.オモロナイ 3.オモンナイ 4.ウケナイ 5.ウケヘン 6.ウケン 7.その他 ()

4. 以下の表現すべてについて、**程度が強いと思う順番**に、() 内に番号を入れてください。

※ (1, 2) > (3, 4) のように、一つのカッコに二つ以上の番号を入れて、一部のカッコが空いても構いません。

- ① 1. とてもうまい 2. ガチうまい 3. マジうまい 4. 超うまい 5. めっちゃうまい 6. すごいうまい 7. ヤバイうまい
強 () > () > () > () > () > () > ()
② 1. 意外にうまい 2. 普通にうまい 3. 地味にうまい 4. 余裕でうまい 5. さりげにうまい 6. なにげにうまい 7. 微妙にうまい
強 () > () > () > () > () > () > ()

5 以下の言い方について、**使うかどうか**教えてください。また、**おかしいかどうか**を5段階で評価してください。

- ①「味どう?」「ヤバイ! (味が良い意味で)」 1. 使う 2. 使わない おかしくない← 1 2 3 4 5 →おかしい
②「味どう?」「ヤバイ! (味が悪い意味で)」 1. 使う 2. 使わない おかしくない← 1 2 3 4 5 →おかしい
③「調子どう?」「全然! (調子が良い意味で)」 1. 使う 2. 使わない おかしくない← 1 2 3 4 5 →おかしい
④「調子どう?」「全然! (調子が悪い意味で)」 1. 使う 2. 使わない おかしくない← 1 2 3 4 5 →おかしい

次のページに続きます

6. 以下の店舗について、行く頻度、店舗名の呼び名、また行くときの言い方について、教えてください。

- ①マクドナルド a. 行く頻度 1. かなりよく行く 2. よく行く 3. たまに行く 4. あまり行かない 5. まったく行かない
 b. 呼び名 1. マック 2. マクド 3. マクドナルド 4. その他 ()
 c. 行くとき 1. マくる 2. マック行く 3. マクドル 4. マクド行く 5. マクドナルド行く 6. その他 ()
- ②セブンイレブン a. 行く頻度 1. かなりよく行く 2. よく行く 3. たまに行く 4. あまり行かない 5. まったく行かない
 b. 呼び名 1. セブン 2. イレブン 3. セブンイレブン 4. その他 ()
 c. 行くとき 1. セブる 2. セブン行く 3. イレブる 4. イレブン行く 5. セブンイレブン行く 6. その他 ()
- ③ガスト a. 行く頻度 1. かなりよく行く 2. よく行く 3. たまに行く 4. あまり行かない 5. まったく行かない
 b. 呼び名 1. ガス 2. ガスト 3. その他 ()
 c. 行くとき 1. ガスる 2. ガスト行く 3. その他 ()

7. 以下の表現を、親しい友達相手に対して使うかどうかについて、おたずねします。

①どのような手段のときに使いますか。使う手段すべてに○をつけてください。

- | | | | | | |
|-----------------------------|---------|---------|---------|-----------|---------|
| 1. とりま (とりあえず、まあ) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 2. 同中 (オナチュー／ドーチュー：同じ中学) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 3. いつメン (いつものメンバー) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 4. おこ (怒っている状態) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 5. なう (今を表すとき) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 6. わず (過去を表すとき) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 7. ういる (未来を表すとき) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 8. 神 (ネ申、カミ：すごい人) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 9. リア充 (実生活が充実している人) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 10. 乙 (オツ：お疲れ様) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 11. ワンチャン (もしかして～あるかも) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 12. J K (女子高生) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 13. H K (話し変わって) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 14. w k t k (ワクテカ：期待する様子) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 15. k t k r (キタコレ：出現・登場を表す) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |
| 16. w w w (笑いを表す) | 1. 話すとき | 2. ケータイ | 3. パソコン | 4. 手で書くとき | 5. 使わない |

②「ワンチャン」という言い方についておたずねします。

- a. 使ったり、聞いたり(見たり)したことがありますか。 1. 使う 2. 聞く 3. 知らない
- b. (使う・聞く人)いつ頃、どこで(誰から)知りましたか。 いつ頃 () どこで(誰から) ()
- c. (使う・聞く人)何パーセントくらいありそうなことに対して使いますか(使っているように感じますか)。 () %
- d. (使う・聞く人)「もしかして優勝するかもしれない」というとしたら、どのように用いますか。
 1. ワンチャン優勝ある 2. 優勝ワンチャン 3. その他 ()

8. ことばに関する意識・生活についておたずねします。

①あなたがふだん親しい友達と話すことばは、どのようなことばだと思いますか。

1. 標準語 (共通語) 2. 方言 → (具体的にいうと) (方言) 3. その他 ()

②あなたは、標準語 (共通語) がうまく使えると思いますか。

1. とても使える 2. やや使える 3. どちらともいえない 4. あまり使えない 5. まったく使えない

③あなたは、最近、日本語が乱れていると思いますか。

1. とても思う 2. やや思う 3. どちらともいえない 4. あまり思わない 5. まったく思わない

④あなたがふだんよく使うもの、よく見るものすべてに○をつけてください。

1. YouTube 2. ニコニコ動画 3. ちゃんねる 4. Twitter 5. Facebook 6. ミクシィ 7. GREE 8. モバゲー 9. その他 SNS

9. 最後にご自身についておたずねします。 (名前はおたずねしません)

①所属 () 大学大学院・大学・高専・高校 () 学部・研究科 () 年生

②性別 1. 男 2. 女

③年齢 満 () 歳 19 () 年 () 月生まれ

④お住まいの場所について、よろしければ、以下の例のように、丁目や番地などの数字の前の部分まで教えてください。

例) × 神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番地1 → ○神奈川県川崎市多摩区東三田 (←数字部分は不要です)

a. 5歳から15歳までの引越回数と最も長く住んでいた場所 (判断しにくい場合は複数お書きになっても構いません)

引越回数 () 回 場所 ()

b. 現在住んでいる場所 (aと異なる場合) ()

※留学生の方は、aでは国名と省・道・県・州名を教えてください。

ご協力ありがとうございました。